

人はどうやって座っていたか教えてください」

たかし「ここがテレビとしたら、ぼくがここでゲームしとって、たろうがこのへんに座った」

職員A「たかしさん、ありがとう。じゃあAさんは①番の深呼吸と③番の職員さんに言いに行く方法を練習してみます」

(職員A：ゲームをしている演技。職員B：いきなりゲームスイッチを切る演技。職員A：大きく深呼吸をしてから、職員役のようこのところへ歩いていきスイッチを切られたことを告げる演技)

～中略～

職員A「それでは、さっき職員さんがやったみたいに、順番に練習してみよう」

(順番を決めて、役柄も交替しながら一人ずつ練習し、良かったところをほめていく)

職員A「さとるさん、今のたかしさんの練習で良かったところはどこかな？」

さとる「えっと、深呼吸を忘れやんとしとった」

職員A「その通り、よく見てたね。大きな深呼吸をして、イライラメーターを下げたね。他にも良かったところあるかな？」

けいこ「落ち着いて職員さんに話ができてた」

職員A「そうだね、ゆっくり落ち着いて、たろうさんのことを説明できてたね」

～中略～

職員A「みんな、とても上手に練習ができていたので、今週は、病棟で「いやな気持ち」になったとき、①と③の方法を使ってみるのが宿題です。うまく使えたらこのチャレンジカードに職員さんのサインをもらってきてね。」

・・・このようにSSTでは、「不適切な行動」や「うまくできない部分」には焦点を当てず、「適切な行動」や「ほんの少しでもできた部分」をトークンやほめ言葉で強化しながら、日常生活の中で、実際に技能をつかえるように援助していきます。また、お子さんの「自分にはできない」という思いこみが「こうやればできる」に変わっていくこともSSTの魅力と言えます。

＜SSTで職員が変わる！？＞

最後にお伝えしたいのは、お子さんの行動の変化を助けるのは、「SST」ではなく「SSTという技法を使う職員」であるということです。「SST」の技術を習得した職員は、そのグループの中だけではなく、病棟での日常生活においても、常にお子さんのちょっとした行動の変化や頑張りを見つけてほめようとワクワクするようになります。ほめ方のワザ（タイミング・わかりやすさ・言葉のつかい方など）も磨かれていきます。また、お子さんがどのような行動をすべきかわからないときにも、直接教えてしまうのではなく、お子さんが自分で気づけるように、上手に合図やヒントを送れるようになります。

つまり、お子さんは、SSTグループにさえ参加していればよいというのではなく、入院生活の全ての場面で、そういった効果的な職員の援助を受けることによって、障害や疾患が軽減していくのだと考えています。そういった意味で、あすなる学園の治療に「SST」を導入したことによって、まず職員の接し方が変わり、そのことによってお子さんの行動が変わったと言えるのではないのでしょうか。



外来診療のご案内

平成18年4月からの診察担当医です。

- * 診察は完全予約制です。
- * 初めの方の診察は午前のみで、予約制です。

● 予約電話番号
059-234-9700

曜日	月	火	水	木	金
1 診	中島	西田	中野	小泉	西田
2 診	小泉	中西	石田	中西	中野
3 診	/	中島	/	/	/